



東洋工業塗料の環境配慮について
Sustainability Report

Jupiter

1. 環境問題取り組みについて

2. 現状と今後の取り組みについて

3. SDGs活動



SDGsとは？

“経済圏”・“社会圏”・“生物圏”の3階層になる



(経済圏の発展)

生活や教育などの社会条件によって成り立つ



(社会圏の発展)

生物圏の発展により成り立つ



つまり

人々が生活するために必要な自然の環境
によって支えられている

従って、自然環境を良くしていく必要がある

(公表範囲)

Scope1: 自社の事業活動から直接排出される
温室効果ガス

Scope2: 自社が利用する電力等の発電時に
排出される温室効果ガス

Scope3: 自社のサプライチェーンの上流および
下流で排出される温室効果ガス

(Scope1:実状)

営業車両の運行に伴い排出される二酸化炭素	工場内の荷役自動車等の運行に伴い排出される二酸化炭素	工場内のボイラー使用に伴い排出される二酸化炭素
21	6	78
tCO2	tCO2	tCO2

(Scope1:今後の取り組み)

1.HV車やEV車活用による二酸化炭素排出量の削減

⇒営業車をHV・EV化することにより、営業車量の運行に伴い排出される二酸化炭素量を、20%程削減することを目標とする

2.工場で排出される二酸化炭素の削減

⇒現時点においては、一定量を削減出来る効果的な施策が想定が困難であるため、まずは当排出総量を会社として十分認識すると共に、導線の工夫、工場内のエコ活動の推進等を計り削減を目標とする

注)CO2排出量算定にあたっては、下記のデータを活用させて頂いています

- 1) サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.2)(環境省HPから引用)
- 2) 温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧(環境省HPから引用)

(Scope2: 実状)

弊社が使用する電力製造時に排出される二酸化炭素
108 tCO2

(Scope2: 今後の取り組み)

1.再生エネルギーを使用する事で二酸化炭素の削減

⇒ 当面は社内のエコ活動推進による電力使用削減を進めるにとどめ
安定的な利用が可能な再生可能エネルギー由来の電力を模索して参ります

(2022年度に発生した世界的エネルギー不足に由来し、再生可能エネルギーを提供している多くの電力会社はその規模を縮小しており、現在、再生可能エネルギー由来の電力の新契約が極めて難しくなっています)

注) CO2排出量算定にあたっては、下記のデータを活用させて頂いています

- 1) サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (Ver.3.2) (環境省HPから引用)
- 2) 温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 (環境省HPから引用)

(Scope3: 実状)

購入した製品・サービス	輸送・配送(上流)	事業から出る廃棄物	出張	雇用者の通勤	輸送・配送(下流)
3,639	21	7	16	7	21
tCO2	tCO2	tCO2	tCO2	tCO2	tCO2

(Scope3: 今後の取り組み)

1. 現状把握

⇒ 弊社努力だけによる排出量削減は簡単ではないため、まずは社内で当総量を把握し、社内で排出量削減施策に着手する事から始めたい

2. 算定除外

⇒ サプライチェーン排出量で取り決められているカテゴリの中で、算出が極めて困難であったり、弊社努力での削減が困難であるカテゴリは上記算定には含めておりません

注) CO2排出量算定にあたっては、下記のデータを活用させて頂いています

- 1) サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.2)(環境省HPから引用)
- 2) 温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧(環境省HPから引用)

(今後の活動)



1. 弊社は、国内でいち早く真空蒸着用塗料の研究に着手し開発を行い、
車輻用の反射鏡用塗料では多くの大手自動車ランプメーカーに採用を
頂いた事で会社の基盤強化を図る事が出来ました
2. 真空蒸着用塗料の技術革新で築いた会社の基盤を、新たな技術革新
創造に活用し、更なる基盤づくりを現在取り進めている所です
3. 具体的には、反射鏡用塗料で培った技術開発力に磨きをかけ
“バイオ関係”・“エネルギー関係”に気を使いながら
取扱う塗料の幅を広げ、他分野への拡大を進めて参ります